



眠れぬ
僕の傍に



rocksan

「あなたが眠るまで傍にいてあげる」
君はそういうけれど
いつだって君が先に眠るのだ
そして僕は毎晩君の寝顔を眺めることになる

とうの昔に壊れた僕を
その細い体で支えてくれる
君の安らかな寝顔を見つめるだけで
癒される気がするのだ
目覚めてる時には
傷つけてしまいそうで
触れる事も躊躇うけど
今は君の髪をそっと撫でている
「夢の中の僕は君に優しいか？」
そう呟いてから君の手に触れると
軽く握り返してくれる
それが答えのように

眠れぬ夜は続く
目覚めた君に
僕はまた冷たい目を向けるだろう
それでも君は毎朝変わらずに
「おはよう」の言葉をくれるから
僕はまだ生きていられるのだろう